

平成18年度事後評価結果（平成18年11月）

[研究開発課題名] 統合的管理機能を有する高効率全光ネットワークの研究開発

[委託機関名] 株式会社 東芝

項目	評価	総合所見
総合所見	A	<p>(技術関係)</p> <p>提案されているシンプルな光ネットワークアーキテクチャは、パスベースの動的カットスルー方式であるが、輻輳回避のメカニズムと連動した光パスの利用法として、利用される可能性はある。一方、GMPLSなどの大きな流れに飲み込まれて独自性のアピールが難しいという面も内包されている。とくに全光ネットワークシミュレータ、リンク障害回避方式、反転RZ変調方式、高速高安定光周波数制御方式などを開発し、それらの開発した技術をもとにして1bit/s/Hzを越える超高密度WDM伝送実験およびアドドロップ実証実験を成功するなど、研究成果自体は非常に優れたものである。</p> <p>反転RZ変復調、高安定光周波数制御に関しては、それぞれ、新規なアイデアが盛り込まれており、有効性も実証されていることから、開発の後に十分な市場導入が見込めると考えられ、成果としては有効であると考えられる。</p> <p>(事業化関係)</p> <p>本研究開発成果である知的財産を用いたライセンス収入による事業化計画であり、現在、研究開発されている高コストの全光ネットワーク装置に対して、高効率かつ低コストを実現できるという特長を生かした市場シェアの獲得を目指している。これらの特長とインターネットトラフィックの増加により一定の収益が期待される。</p>

(注) 総合所見の公表にあたっては、企業秘密等に配慮しています。